令和元年度広域的人財育成事業　実績報告書

おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～

事業概要

趣旨 目的	【趣　旨】 置賜地域においても、各自治体で課題となっている少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退等の地域活力の低下を招く状態が続いている。 置賜地域が将来にわたり地域活力を持続・発展させていくためには、置賜地域にある地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組むことが必要であり、地域住民一人ひとりの地域へのかかわりが地域活力の向上につながり地域全体に広がっていくことが何よりも大切になってくる。 そのため、本組合では、第５次置賜広域行政事務組合ふるさと市町村圏計画（計画期間平成 25 年度～令和４年度）に基づき、広域行政ならではの広域的な枠組みでの人財育成事業を計画期間内において長期的な視点で推進する。 【目　的】 本組合の人財育成事業を通じて、地域住民一人ひとりが地域づくり活動の場で活躍し地元地域へ還元し、交流人口の拡大につなげる。 また、地域づくり活動に関わることで地域に対する愛着と誇りを醸成し、自分たちが住む地域活力を持続・発展させるのは、自分たち次第だという意識を誘発することを目的とする。
概 要	【事業内容】 本組合の人財育成事業は、平成 28 年度を開始年度として令和４年度まで長期的な視線で実施することを予定しており、地域づくりに関わる人財に対する「きっかけづくり」を事業の骨子とする。 事業内容としては、参加した人への地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場としての役割が主となるため、講義や研修といった「OFF－JT」を中心に事業を進め、最終的には自ら意欲とやる気を持ち自己研鑽に努める「自己啓発」を促すことを目指した事業を展開する。 ①講座を通じて様々な成功事例や地域づくりに関する知識を学ぶ。 ②地域づくりに関する様々な研修への参加（地域活性化センター主催の研修等）を通じて日本各地の地域や人財との相互交流により見識を深める。 ③フィールドワークや演習を通じて実体験。 ④振り返りにより事業に参加しての成果と今後の目標を確認。 ⑤次年度以降の自発的な活動につなげていくもの。

【事業イメージ】

実施事業

項目	月日	内容
受講者説明会	5/10	４期生へ事業内容を説明
講座Ⅰ	6/24	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか
講座Ⅱ	8/25	私のやりたいこと×社会によいこと
フィールドワーク	11/3~4	芝の家、ご近所ラボ新橋、ご近所イノベータ養成講座の視察研修
公開講座	2/22	つながりが私たちの暮らしを豊かにする・創発のまちづくり
講座Ⅲ	3/21～22	新型コロナウイルスにより次年度延期し、令和３年３月 20 日に実施した。
地域活性化センター「土日集中セミナー」	11/9～10 12/14～15 1/18～19 2/15～16	食と農の域内サイクル やねだん東京塾 『生業（なりわい）』を超える地域企業 これからの"共育"
交流事業	6/15～16	ゆるやかなつながりづくりと置賜を訪ねる旅

講師

坂倉　杏介 氏（東京都市大学都市生活学部准教授）

多様な主体の相互作用によってつながりと活動を創出する「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを実践的に研究。地域コミュニティの拠点「芝の家」や大学地域連携の人材育成事業「ご近所イノベーション学校」の運営などを通じて港区のコミュニティ活性化事業を手がけるほか、地域づくりや企業におけるコミュニティ形成プロジェクトに多く携わる。

受講者名簿［第４期］

合計１２名（男性４名、女性８名）

米沢市（男性３名、女性６名）、長井市（女性１名）、南陽市（女性１名）、飯豊町（男性１名）

事業支援

団体名	所属・職名	氏　　名
（一財）地域活性化センター	人材育成プロデューサー	前　神　有　里

年度別受講者数

年度	性別	米沢市	長井市	南陽市	高畠町	川西町	白鷹町	飯豊町	小国町	計	合計
H28	男性	1				2				3	12名
	女性	5	1				1	2		9	
H29	男性	2		2						4	13名
	女性	6	1		2					9	
H30	男性	1	2				1			4	15名
	女性	4	1	1	1	4				11	
R01	男性	3						1		4	12名
	女性	6	1	1						8	
計	男性	7	2	2		2	1	1		15	52名
	女性	21	4	2	3	4	1	2		37	

事業内容

講座Ⅰ「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか？」

項　目	内　容
参加者	第４期生 10 名
月　日	令和元年６月 16 日（日）
場　所	米沢市「スタジオ八百萬」
内　容	はじめに、いまの気持ちをシェアする「チェックイン」から講座が始まり、講師の坂倉先生から、「人と地域をつなぐ事業」のキーワードである「ゆるふわ」について話があった。 「ゆる：開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。」 「ふわ：まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。」 →これまでの「地域おこし」の「型」に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために必要なまちをつくること。 講座は次の内容で進められた。 ①私を生かして、まちを活かす。 （新しい社会システムをみんなでつくりあう時代へ） ②仲間がいなければ、はじまらない。 （「つながり」と「対話」のうまれる場所とは？） ③「常識」を一歩超えていくには？ （想いをカタチにしていくための創造の技法） 講座の中で、高齢化が進行し、2035 年には、「1.2 人で１人の高齢者を支える。」ことを逆に考えれば、「大人７人で若い世代を育てられる社会」として捉えることもできるといった話や、人と人のつながりから新しい価値を生み出す基盤としての協働プラットフォーム、これまでの常識にとらわれず未来を生み出すためのシステムチェンジの２ループモデルなどの話があった。 講話のあと、受講者同士がどんな人生を送ってきたのか、対話の中で掘り下げる「エナジーカーブ」のシェアを行うワークショップと、「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか？」をテーマにワークショップを実施し、対話により内容を共有し、最後に２ヶ月で取組んでみたいことを受講者全員が宣言した。

写　真	

講座Ⅱ「私のやりたいこと×社会によいこと」

項　目	内　容
参加者	第４期生７名、修了生４名
月　日	令和元年８月 25 日（日）
場　所	米沢市「スタジオ八百萬」
内　容	はじめに、６月に実施した講座Ⅰの内容（「ゆるふわ」や「well-being」）を振り返った。 午前中は次の問いを参考にして、これまでの２ヶ月を振り返り、対話を通じて共有した。 〇課題とチャレンジしたことは？ 〇それによって生じた葛藤、恐れ、困難は？ 〇その中で考え、決断し、行動したことは？ 〇その結果起こったこと、得られた気づきは？ 午後からは、次の３ヶ月を構想するため、坂倉先生の講話を聴き、企画を考えるワークショップを行った。 次の問いから「それぞれやってみたいこと」を考えた。 〇私の価値観・問題意識（根っこにある想い） 〇誰に対して何を提供するか？（泣いて喜ばせたい一人） 〇どのようにすれば実現できるか？（新しいアイデア） 〇いつやるか？誰とやるか？（実現方法） 坂倉先生から、企画する際の参考として、「ご近所イノベータ養成講座」の企画について、それぞれポイントを紹介していただいた。

	想いを実現するために必要なこととして、「私のやりたいこと」×「社会によいこと」の両者が揃うことで持続性と協力者が得られるとの話があり、「私のやりたいこと」を社会にどうつながるかがわからない人と、「社会によいこと」が私のやりたいことにどうつなげたらいいかがわからない人に分かれることが多く、それぞれにあった解決法を教えていただいた。 そのあと、次の３ヶ月にやってみたいことを考えてみようということで、魅力的なタイトル、私の価値観・想い、企画の概要、実行する日時・場所を一人ひとりが考え、受講者同士で話し合い、アイデアを膨らませた。
写　真	

東京都市大学坂倉杏介研究室×人と地域をつなぐ事業「信夫町ガーデンフェスティバル」

項　目	内　容
参加者	受講者８名、坂倉研究室学生 27 名
月　日	令和元年８月 30 日（金）～31 日（土）
場　所	米沢市下信夫町「スタジオハ百萬」周辺
内　容	東京都市大学坂倉杏介研究室（以下、「坂倉研」という。）の夏合宿と合同事業を始めて３年目となる今年は、人と地域をつなぐ事業修了生が、信夫町でスタジオハ百萬を営み、暮らしていくなかで、近くに暮らす人と顔を合わせる機会が少なくなっていることを感じ、何かをきっかけに、顔が見える関係にしたいという「想い」から、５０世帯１００人の信夫町に暮らす人たちの関わりを結び直すため、空き地を人々が生き生きといられる居場所として使い直し、多世代の住民の自然なつながりが生まれる地域にしていく試みとして、何かできないか、坂倉先生に相談したことがきっかけとなり、８月 31 日（土）に「信夫町ガーデンフェスティバル」を実施した。

	「信夫町ガーデンフェスティバル」の実施に向けて、７月末からオンラインミーティングを重ね、８月 25 日には、坂倉研の学生にも来ていただき、チラシと学生からの手紙を持って、信夫町のご家庭を訪問していただくなど、事前の準備を進めてきた。 坂倉研の学生は、８月 30 日から、ラジオ班、動画班、会場班、ポスティング班、スライドショー班など、班ごとに準備を進め、ラジオ班が機材のチェックや番組プログラムを作成し、あわせて、当日のミニ FM の周波数を決めます。ポスティング班が周波数を書いた紙をイベント告知とあわせて、信夫町の各家庭をまわり、イベント周知を行った。 当日は朝から快晴となり、外の会場では、テント設営に信夫町下の町内会長や青年部の方からもご協力いただき、空き地が豊かな「信夫町ガーデン」となった。 本番が始まり、どのくらいの方が来てもらえるだろうかという不安があるなかで、信夫町で暮らすご夫婦が、始まってすぐに会場に来ていただいたことで不安もなくなり、学生の元気なアナウンスでフェスティバルが始まった。 会場では、坂倉研の信夫町ラジオ、レモネード販売、ゲームコーナー、人と地域をつなぐ事業の受講者による血圧測定やハンドマッサージ、長井スパイクファミリーのけん玉コーナーがあり、たくさんの方にお越しいただいた。 これまで出会わなかった人と人が出会い、顔をあわせて話をしている光景が、会場のいろんな場所で見ることができた「信夫町ガーデンフェスティバル」は、信夫町で暮らす人をつなぎなおすだけでなく、会場にお越しいただいた人たちをつなぐ取り組みになった。
写　真	

フィールドワーク

項　目	内　容
参加者	第４期生９名、修了生６名
月　日	令和元年 11 月３日～４日
場　所	(1)「全国連携マルシェ in 芝浦プラタナス公園」東京都港区芝浦 (2)「東京都市大学等々力キャンパス」東京都世田谷区 (3)「芝の家」東京都港区芝 (4)「尾山台商店街おやまちプロジェクト」東京都世田谷区尾山台 (5)「ご近所イノベータ学校シンポジウム」慶應義塾大学
内　容	(1) 全国連携マルシェ in 芝浦 対応：溝口貴裕氏（港区全国連携担当課主任） はじめに、プラタナス公園に移動し、「全国連携マルシェ in 芝浦」を視察した。全国連携担当の溝口氏に、イベントを案内していただき、芝浦アイランド自治会のイベント担当や、全国連携マルシェを委託業務により運営している事業者の代表をご紹介していただくことができた。 芝浦アイランド自治会は 2,000 世帯、10,000 人が暮らしており、マルシェが定期開催されても購買力は高い。実際に置賜地域から出店する場合は、ＪＡなどの規模の大きな団体よりも、野菜や果樹などを作っている個人に出店していただく方が、顔の見える関係づくりをしやすいと感じた。 (2) 東京都市大学等々力キャンパス 対応：坂倉研の学生 東京都市大学等々力キャンパスに行き、「等々力祭」を視察した。信夫町ガーデンフェスティバルで置賜を訪れた学生と再会し交流した。 (3) 芝の家 対応：清家瑞穂氏（24 時間トークカフェ置賜スタッフ） 港区芝地区総合支所の進める「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点である芝の家を視察した。「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」は、子どもたちの成長を地域で見守り、井戸端会議では住民同士の親しい会話がある。そんな昭和 30 年代にあったような「あたたかい人と人とのつながり」の創生をめざす事業である。「あたたかい人と人とのつながり」とは、子どもがのびのびと遊び、お年寄りが安心して暮らせるように、まちに住み働く人たちがお互いに支えあえる関係のこと。 事業の拠点である「芝の家」は、現代社会で見失いがちな、こうした暮らしのあたたかさを育んでいくため、子ども、大人、お年寄り、住民、在勤・在学者、だれでも自由に出入りでき、住民と共にまちを考え創ることのできる場を提供することを目的としており、慶應義塾大学との協働で行われ、大学と地域が連携しながら、運営を行っている。 今回は、平成 27 年度から始まった「人と地域をつなぐ事業」と「イノベータ養成講座」の受講者同士が交流することで開催することができた「24

時間トークカフェ置賜」に至るまでを振り返り、これからも交流を続けていくために何が鍵になるのかを話し合い、参加者全員で共有した。

・地域の交流の本質は人と人とのつながりから生まれる。

誰かに会いたいからその場所に行く、もしくは会えるかもしれないという期待も含めて、その地域に行こうと思う時、人の顔がちゃんと思い浮かべられる関係が先にある。だからこそ、その場所に行きたくなるのではという意見があった。

・あらかじめゴールを決めない余白があるから生まれる豊かさがある。

仕事では常に目標があり、効率が求められ常に成果を示していかなくてはならない息苦しさがあるけれど、人と地域をつなぐ事業で「ゆるふわ」という概念やあり方を教わり、ゆるやかなつながり、あらかじめゴールが決められていない余白がある自由を知った。そんな場所があることが嬉しく、人と地域をつなぐ事業がとても好きだという話があった。

(4) 東京都世田谷区尾山台「おやまちプロジェクト」

対応：高野雄太 氏（おやまちプロジェクト代表理事）

「信夫町ガーデンフェスティバル」で、ご協力いただいた高野雄太氏から、日々の暮らしをもう一歩面白くする「おやまちプロジェクト」について話を伺うため、尾山台商店街を視察した。

「尾山台の多様な人や想いをつなげると暮らしが豊かになりそう！」と感じて、これまで２年半、おやまちプロジェクトの取組みを進めていること、進める上で「①まちへの想い、②ひとりで始めない、③既存組織の枠を越える、④すでにそこにあるものを活かす、⑤いろんな属性の人が関われる、⑥とりあえずやってみる、⑦自分自身の暮らしを豊かに」を大事にしていること、プロジェクトに関わってくれる人には、「つなげる⇒想いや考えを聞く⇒応援して実現する」といった想いで関わっているといった話をしていただいた。

坂倉先生を通じて、人と地域をつなぐ事業で大事にしていることと親和性があり、受講者がこれから取り組む活動のヒントになる話がたくさんあった。その後、実際に尾山台商店街を歩き、まちを見ることができたことも良かった。今後、「おやまちプロジェクト」と「人と地域をつなぐ事業」の交流も進めていきたい。

(5) シンポジウム「異文化との出会いでイノベーションが動き出す！」

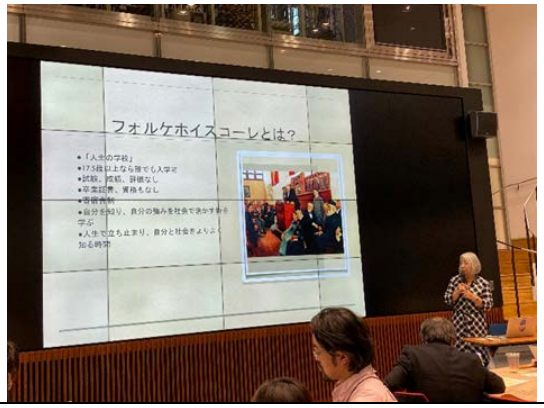
基調講演「『フォルケホイスコーレ』～デンマークでの人を中心にした社会デザイン～」ニールセン北村朋子 氏（共生ナビゲーター）、ファシリテーター：山口覚 氏（津屋崎ブランチ）

ご近所イノベーションとは、地域にかかわる一人ひとりが「やりたいことをまちにつなげる」ことで実現する新しい地域づくりであり、「自分を生かして、まちを活かす。新しい地域づくりを、港区から。」をテーマに、「ご近所イノベーション学校」として、想いをまちにつなげるさまざまな講座

	の実施、ご近所イノベーション活動の情報支援、つながりと活動を生みだす場の運営や、学校という名の「新しいかたちの中間支援のプラットフォーム」づくりを通して、多くのご近所イノベーションが起こる地域を目指しおり、港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の連携によって実施されている。 　ご近所イノベーション学校では、自分の想いと持ち味を地域に活かし、人と人、組織と組織をつなげ、創造的な課題解決を実現する〈人財〉の育成を目的に、大学や地域の資源を活用した各種の講座を実施しており、今回は第７期の活動発表の見学と、基調講演を受講し、関係人口について学び、受講者も港区の参加者の方と意見交換を行うことができた。 　基調講演では、デンマークで大切にされていることの話を聴くことができた。「安心と責任と信頼」、「信頼、成熟し自立する、積極的社会参加、多様性、今までのやり方を疑ってみること」というところが印象に残った。また、カチッとやることが決まっていないスペース（余白）が決まっていないスペースが必要であるとの話があり、人と地域をつなぐ事業やおやまちプロジェクトと通じる話もあった。 　世界で初めて、デンマークのコペンハーゲン首都圏とニールセン北村朋子さんが暮らすロラン市で、「持続可能な共生を目指す協力協定」が締結され、都市と地方の「対等なパートナーシップ」、具体的な価値観として「対話、開示性、信頼」を掲げているという話もあり、今後の港区と置賜の連携にも、とても参考になった。 (6) まとめ 　人と地域をつなぐ事業の講師である坂倉杏介氏の港区での取り組みを受講者の方と一緒に体験することで、今までの講義内容を、より深く理解することができた。連携のきっかけになった視察研修も４年目となり、つながりも強くなってきている。これからもこのつながりを大切にして、事業を進めていきたい。 　また、今年度から修了生も一緒に受講できる仕組みとしたことで、より深い振り返りや、受講生同士の縦のつながりをつくることができた。
写　真	

ザエカ×坂倉研

日々の暮らしを
もう一歩面白くする


フォルケホイスコーレとは？

公開講座「つながりが私たちの暮らしを豊かにする・創発のまちづくり」

項　目	内　容
参加者	受講者 11 名、来場者 76 名
月　日	令和２年２月 22 日（土）
場　所	高畠町「浜田広介記念館　ひろすけホール」
内　容	本事業は、第５次計画期間終了まで７年間の事業として実施しており、今年度は中間年の４年目となることから、令和２年２月２２日（土）に、浜田広介記念館のひろすけホールを会場として、これまでを振り返り、これからを考える公開講座「つながりが私たちの暮らしを豊かにする・創発のまちづくり」を開催した。置賜地域からだけでなく、ゆるやかなつながりを続けている東京都港区、坂倉研の学生、山形県内、北は青森県から南は愛媛県まで、約９０名の方にご参加いただいた。 イントロダクションとして、坂倉先生、前神さん、事務局から事業紹介を行った後、ソトコト編集長の指出一正氏から、「関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける～」と題して、ご講演いただいた。 講演終了後、ワールドカフェを行い、「あなたにとって、豊かな暮らしとは？」、「あなたが未来に向けてやってみたいことは？」というテーマで話し合うダイアログ（対話）の時間とした。最後に講師からコメントをいただき終了となった。 今回の講座では、人と地域をつなぐ事業の受講者から企画運営チームを募り、会場の選定からはじまり、講座のタイトル、チラシのデザインなど、運営の方法、事業紹介パネルの作成など、時間をかけて準備を進めてきたことが成功につながった。今回の公開講座をきっかけにして、次の３年間も丁寧に進めていきたい。
写　真	

講座Ⅲ「この地域で生き続けるために」

項　目	内　容
参加者	第４期生７名
月　日	令和３年３月 20 日（土）
場　所	米沢市「スタジオハ百萬」・オンライン
内　容	新型コロナウイルス感染症により、１年間延期していた４期生の講座３を実施した。 参加者全員でチェックインしたあと、受講してからの２年間を振り返るストーリーテリングのワークショップを行い、４期生同士で話を聞き、チェックアウトを行った。 ◇ストーリーテリングワークショップの設問 ①この２年間で起きた最も大きな変化はどんなことですか。 ②20 年後に振り返ったとき、あなたの人生においてこの２年間はどんな時間だったと思うでしょうか。 ③この２年間で、どんなチャレンジをしましたか。勇気を出して一歩踏み出したことはどんなことでしょうか。その時に感じた葛藤や恐れも含めて具体的に教えてください。 ④恐れを乗り越え一歩踏み出したことで、どんなことが得られましたか。それまでと違う風景が見えましたか。 ⑤その過程で重要だった出会い、気づき、行動はどんなことでしたか。 ⑥これからもあなたが大事にして行きたい想いや価値観はどんなことですか？ ⑦あなたは、この地域でどのように生きていきたいですか？

写　真	

外部研修　地域活性化センター「土日集中セミナー」受講

項　目	内　容
内　容	(1) 食と農の域内サイクル～見つめる、見つける、未来へつなぐ食の物語～ ・日　程：令和元年 11 月 9 日(土)～10 日（日） ・場　所：地域活性化センター大会議室（東京都中央区日本橋 2－3－4） ・受講者：1 名 (2) やねだん東京塾～『やねだん』に学ぶ補欠のいない住民主体の地域づくり～ ・日　程：令和元年 12 月 14 日(土)～15 日（日） ・場　所：地域活性化センター大会議室（東京都中央区日本橋 2－3－4） ・受講者：1 名 (3) 『生業（なりわい）』を超える地域企業をつくる ・日　程：令和元年 1 月 18 日(土)～19 日（日） ・場　所：地域活性化センター大会議室（東京都中央区日本橋 2－3－4） ・受講者：4 名 (4) これからの"共育"～次世代と大人が生み出す学びの輪～ ・日　程：令和 2 年 2 月 15 日(土)～16 日（日） ・場　所：日本橋プラザ会議室（東京都中央区日本橋 2-3-4） ・受講者：2 名

交流事業「ゆるやかなつながりづくりと置賜を訪ねる旅」

項　目	内　容
参加者	受講者 15 名 24 時間トークカフェ置賜メンバー６名、坂倉ゼミ学生４名
日　時	令和元年６月 15 日（土）～16 日（日）
場　所	長井市「旧長井小学校第一校舎」
内　容	今年度は６月 15 日から 16 日にかけて、24 時間トークカフェ置賜の報告を兼ねて、スタッフ、イベント参加者、坂倉ゼミの学生あわせて１０名の方が置賜を訪ねる旅を実施した。 今回は置賜を訪ねる旅にあわせて、ゆるやかなつながりづくりを続けていくために、「旧長井小学校第一校舎」を会場に、人と地域をつなぐ事業の受講者との交流事業を併せて行った。 緊張をほぐして話しやすい雰囲気をつくるため、坂倉研の学生アイスブレイク「共通点さがし」を依頼し実施しました。事務局からはこれまでの事、これからもゆるやかなつながりを続けていきたい事について話をした。 このあと、５人ずつの班に分かれて、長井の駅前通りを歩いて散策し、「旧長井小学校第一校舎」に戻り、歩いて気づいたこと、これから「ゆるやかなつながり」を続けていくために、どんなことがあるといいかを全員で共有した。
写　真	

収支決算書

収入　　（単位：円）

項　　目	金　　額	備　　考
基金繰入金	1,797,671	ふるさと市町村圏基金
合　　計	1,797,671	

支出　　（単位：円）

区　　分	項　　目	金　　額	備　　考
報償費	講師謝礼	580,000	
	視察時土産代	5,361	
旅　費	講師等費用弁償	144,660	
	職員普通旅費	109,640	
使用料	会議室使用料	105,000	
負担金	研修負担金及び受講者補助金	853,010	
合　　計		1,797,671	

差引

収　　入	1,797,671	
支　　出	1,797,671	
差　　引	0	

受講者感想

◇項目

①この２年間で起きた最も大きな変化はどんなことですか。

②20 年後に振り返ったとき、あなたの人生においてこの２年間はどんな時間だったと思うでしょうか。

③この２年間で、どんなチャレンジをしましたか。勇気を出して一歩踏み出したことはどんなことでしょうか。その時に感じた葛藤や恐れも含めて具体的に教えてください。

④恐れを乗り越え一歩踏み出したことで、どんなことが得られましたか。それまでと違う風景が見えましたか。

⑤その過程で重要だった出会い、気づき、行動はどんなことでしたか。

⑥これからもあなたが大事にして行きたい想いや価値観はどんなことですか？

⑦あなたは、この地域でどのように生きていきたいですか？

⑧感想やメッセージ

【米沢市】男性
①講座の同期の方の会社に入社 ②ターニングポイントの一つ ③主役から脇役へ 寄り添う・見届けるといった立ち位置に自分を置いた。 ④自分が頑張らなくとも、自分の理想とするものがなんとなく出来上がること ⑤人と地域をつなぐ事業との出逢い ⑥寄り添う ⑦どの地域でも自分の人生を歩むことに変わりはない。 ⑧とても有意義な講座でした。同期の皆や都市大の方々、この講座でたくさんの出逢いがありました。どれも大切な宝物になりました。
【米沢市】女性
①素敵な楽しい仲間が出来た。 ②特別な 2 年間でした。たくさんの素敵な仲間ができて、20 年後は、あの時の 2 年間があったから“今”があるんだなぁ…と言っていると思います。プライベートでも、義両親が米沢に来て介護が始まったり、息子が仕事を辞めて東京から帰って来たり、反面、私は、山形や寒河江に行くことが増えて、忙しくなったりと、大きな変化の 2 年間でした。 ③マヤ暦を知ってもらうために、おうちカフェをしたいという目的がありました。 そのために、まずは、『人を呼べるおうち』にするところから始まりました。 断捨離を頑張って、部屋を広くする努力をしました。ホワイトボードも設置し、勉強会やセッションなど、お仕事の場としても使えるようになりました。 ４期生の仲間も、ちらほら来ていただきました。他の人と地域の仲間たちもぜひいらしてほしいと思います。 ④リビングが広くなったことで、家族にも心地よい空間ができ、何もしなかった旦那が、少し手伝ってくれるようになりました。

⑤４期生で出会った仲間たちと関わっていくうちに、仲間を応援し、協力したい！という気持ちになっていったこと。仲間と達成感を味わえたこと。
⑥人と人との繋がり。本音で関わっていくこと。今、自分が感じている感覚を信じること。
⑦人と人との繋がりを大事にしていきたい。
⑧人と地域に参加できて良かったです。大学生の方たちや、いろんな職業の方たちとの関りが、とても貴重な体験でした。
坂倉先生の講義は、自分の価値観や、世界も広がり、とても楽しい時間でした。
ここで得た仲間との関わりは、これからもずっと続いていくものと確信しております。
本当にありがとうございました。

【米沢市】男性

①素敵な仲間ができたこと。新しい価値観に触れて、考え方に変化が起きたこと。
②貴重な２年間。ターニングポイント。
③仕事を休んだ。新しい環境に飛び込んだ。自分の中にある「～しなければならない」という価値観に対して、「本当に？」と問いかけるようになった。
④もっと楽しんでいいと自分に許可を出すことができた。
⑤教えていただいたワーク、Well-Being や人生曲線など、飲み会、自分をさらけ出して本音で対話をすること。
⑥自分軸で生きるということ。本音で対話して関係を作ること。
⑦人と人との繋がりを大事にしていきたい。
⑧素晴らしい時間、素晴らしい学びをありがとうございました。８年間経営してきた店を辞めるタイミングとなりましたが、全く悲壮感もなく、楽しく希望に満ちているのも、こちらでのご縁があったからこそだと考えています。これからもよろしくお願いします。

【米沢市】女性

①自分の心の拠り所が増えた。
②米沢での生活の新たなスタートライン。自分だけのつながりや時間を持つことができて、改めてこの地域でどうやって生きたいのか考えるきっかけとなった大事な時間。
③ダイエットがてら毎日歩いて八百萬に通ったこと。まだ八百萬もネイビーさんもどんな感じなのか分からなかったから、最初は少し不安だった。でもまずは行動したかったので、やってみようと思った。
④八百萬にはいろんな人が集まると感じた。引っ越して来てから仕事もしておらず、家族や親戚、ご近所のつながりが中心だったため、自分で行動したことでたくさんの人と話せて楽しかった。家にいるだけだと分からなかったが、米沢でもいろんな活動している人たちがいることに気づけた。
⑤講座が進むにつれて４期生同士も仲良くなり、八百萬に行って４期のメンバーがいると嬉しかった。４期メンバーを通して知り合った人もいて、輪が広がっていく感じがよかった。立ち寄るだけだった八百萬で、話し込んでるうちに気づいたら長居してたりして、その時間が居心地よくて楽しかった。
⑥自分の気持ちにしっかりと向き合うこと。いまどんな状態なのか理解すること。（その

ためのアウトプット：1日のエナジーカーブ、メモに書きだす、誰かに話す等々）
ひとつの考え、ひとつの場所にとらわれすぎないこと。
⑦自分の「好き」の感覚を大事にしながら生きていきたい。
⑧・人と地域に参加したことで、4期生の仲間や坂倉研の学生たちともつながれた。家にいるだけ、仕事してるだけじゃ絶対にできないつながりだし、たくさん刺激をもらった。みんなが頑張っているのを見ると、自分も何かやってみたくなるようになった。
・お互いの最近の出来事、それに対して感じたことを話す機会が多いので、より深く相手のことを知ることができる。社会的な立場や役職とか気にせず、一人の人間として見てもらえて、安心できる場所になった。
・コロナ禍であまり外に出れなくなりアウトプットができなくて悶々としてた時も、オンラインでみんなと話ができて前を向けた。ニュースはコロナばかり、仕事も大変な時期だったので、すごく気持ちが楽になった。
・4期の最後の講座に出れなかったのは本当に心残りではあったけど、また次もみんなと集まれる確信はなぜかある。それくらい4期は仲のいいメンバーだと思っているし、いつ会ってもいつも通りの感じなんだろうなという安心感もある。
・人と地域に参加して、みんなとつながれて本当に感謝しています。これからもよろしくお願いします！

【米沢市】女性

①米沢市の酒蔵に就職したこと。
②人生の舵を切った2年間。商品をブランディングするという夢に向かってあるきだした時間。同時に、かっこいい生き方の大人にたくさんあった時間でもある。
③会社の本業とは別の事業をノンアルコール商品（あまさけ）で立ち上げるチャレンジ。挑戦自体はワクワクするし、この機会に立ち会えてよかったと考えているが、葛藤や恐れは、自分で踏み出した道なようで、実際は多くの人のチャレンジの一部分ということ。自分の責任や信頼のなさがつらい。
④まだ目の前のことで精一杯。だが、それまで自分が見ていた世界は狭く、実際はもっと広いことが分かった。就職してからの一年で、自分のことだけでなく他の誰かにとってどう見えているのかを気にできるようになれた。
⑤最近、米沢と実家のプチに拠点生活を始めた。落ち込んだ時、どうしたらよいかわからないときは両親に、時間があれば古くからの友人と電話している。これまでそばにいた人たちのありがたみに気づくことができた。
⑥できるだけ happy なことを口にすること。マイナスなことをどう明るく転換できるかが人と何かをするうえで大切な思いやりだと思う。
⑦自然がきれいな米沢が好き。実家と米沢、自分の安心でいるスペースを守りながら挑戦を続けていきたい。そして安心できるまわりの大切な方々のことを思いやりながらこの地域で過ごしていきたい。
⑧人と地域に参加したことで、人生の中で新しい面が増えた。それまでは、大人の人は仕事に打ち込んでいて、女性も家庭をもって家族と一緒にいる姿が理想という世界観が、リアリティが無くて、狭く感じている自分と、「これはここ（米沢）にいるから抜け出せ

ないのだろうか」という疑問をずっと持っていた。（もっと生き方は自由でいいはずなのに。）
　人と地域のメンバーと普段はなかなかないくらい、深く話す時間と自分を表現してもいい場所をもらったことで、生きづらいのは場所のせいではなくてまわりの環境や自分の心の持ちようなんだと気づいた。この発見は、おそらく２０代で大きな転換点だったと思う。
　米沢で過ごす時間がこれからも続いたとしても、他の場所に移ったとしても、ここで会えた皆さん（４期生、他の期の人、スタッフの方々）が３年後も、５年後も元気で楽しく過ごせるようにと願うことができる関係性に感謝しながら、自分も成長していきたい。

【長井市】女性

①自分のやりたい事を見直して行動力がついた事。１年の内に３回も引っ越ししました。
②過去のネガティヴな自分とサヨナラ出来た素晴らしい２年間でした。自分を変える人生のターニングポイントでしたね。
③コロナが原因で実現出来ませんでしたが、猫カフェに近い様なペットと伴う飲食店の事業を知人と一緒にしようとしていたこと。事業を始めるにあたり、家族の同意や資金力、また、もしこれでスタートしても本当に食べていけるのかとそういった葛藤や恐れがありました。
④コロナ禍が原因により実現してない段階なので、まだ恐れを乗り越えてはいません。
⑤猫カフェ経営したいと思い、しまやさんからご紹介頂いた４期生の出会いが重要でした。みんなそれぞれの道を頑張っていて、私も頑張るようにパワーを貰いました。また、雇われの身から個人事業主になるというのは、やはり生活の事を考えると簡単に行動は移せませんでした。ですが、もし自分のやりたい事があるならば早めに事業を立ち上げるべきだと痛感しています。何故ならば、万が一失敗したとしても人生の修正がまだ可能と気付いたからです。行動としては、２年間の間に愛玩動物飼養管理士２級を１発合格した事です。これがあれば、店をオープンする条件をひとつクリア出来たのでとても嬉しく思っております。
⑥人それぞれに対する思いやりの心を忘れない事です。
⑦コロナ禍で厳しい所ではありますが、現在、マツキ合宿免許予約センターで働いてるので『やっぱり、学校免許と言えばマツキだよね！』って地域の皆さん含め全国の方々から言われるように頑張りたいです。ゆくゆくは自分の夢を実現したい…。
⑧この２年間、本当に楽しかったですし、とても勉強になりました！４期生の皆さんが、優しい方々ばかりでこんか私でも受け止めてくれる場所があるんだなぁと安心感が生まれました。感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。また４期生の方々と飲み会などでお会い出来たらなぁと思います。

【南陽市】女性

①NPO 法人での活動を通して知り合った方々との縁が広がり、人と地域をつなぐ事業に参加できたこと。卒論や就活を通し自身の夢をいくつか実現できたこと。
②失敗を恐れず挑戦することの大事さに気づくとともに、自身の視野が広まった時間

③公務員試験に挑戦したこと。卒論にて様々な業種の方にアポを取りお話を伺ったこと。
④公務員試験→面接にてそれほど緊張することなく自身の想いを伝えることができた。卒論→取材させてもらった方が卒論の進捗状況にアドバイスを下さったり、新たに関係者の方を紹介してくださったりした。
⑤勇気を出して一歩行動することで、私の興味分野のプロの方々が時間を割いて意見を聞いてくださることや逆にアドバイスや感想をくださることで、自身の価値観や視野が広がったこと。
⑥失敗を恐れずに何事も挑戦してみること
⑦常に夢や目標をもって生きていくとともに、挑戦を恐れずに生きていきたい。
⑧なかなか毎回参加することはできませんでしたが、大学４年間の経験の中でも１、２を争うレベルで自身の視野を広げる経験になりました。麻美さんやゆかさんが毎回声をかけてくださることも本当に嬉しくて、住んでいる場所や職業は違っても人と地域をつなぐ事業を通して出会えた方々とのご縁はこれからも大切にしてきたいと心から思いました。４月からは、新社会人として人と地域をつなぐ事業を通し得た気づきを大切にしながら地元に貢献できるよう頑張ります。

おわりに

本組合では、平成 28 年度からふるさと市町村圏計画の広域活動計画に基づき、広域的人材の育成活用事業として、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場として、「おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～」を実施しています。

坂倉杏介氏の講義、受講者同士のつながり、芝の家等を視察した際の港区の方との交流などを実施することで、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」だけでなく、受講者の自発的な取組みに繋がったことは大きな成果となりました。

４年目となった今年度は昨年に引き続き、坂倉杏介研究室の夏合宿と合同で事業を実施し、中間年度の取り組みとして、公開講座「つながりが私たちの暮らしを豊かにする・創発のまちづくり」を実施することができました。

これからも令和４年度まで、引き続き事業を実施するなかで、「気づき」や「きっかけ」を与える場であるとともに、受講者と共に、試行錯誤しながら置賜地域で活き活きと暮らしていくための方法を考えていく事業としていきながら、港区芝地区ご近所イノベータ学校や世田谷区尾山台おやまちプロジェクトとの関係人口を創り出す事業としても進めていきたいと考えております。

最後に、受講していただいたみなさま、講師の坂倉杏介氏、事業の支援をいただいた（一財）地域活性化センターのみなさま、坂倉杏介研究室の学生のみなさま、人と地域をつなぐ事業に関わっていただいたみなさまに、深く感謝申し上げ、報告書の結びとします。